

ま と め

本調査は、近く実施予定の「技術力の向上と人材開発に関する調査」のための予備調査として実施したものである。本調査のねらいは、技術革新の進展に関連して中小企業で発生している人材育成上の問題点を把握することを試みたものである。

以下、本調査から明らかになった事実を整理し、合わせて今後の研究課題を提起して結びにかけることにしたい。

まず、明らかになったことは、技術革新に果敢に挑戦し、適応していく中小企業の姿である。

マイクロエレクトロニクス技術を応用した自動化機械設備が中小企業においても、盛に導入されており、中小企業におけるME化を中心とした技術革新への対応には、我々の予想を超える積極的な姿勢がうかがわれた。また、その導入設備に対する評価についてもプラスの評価が多くみられた。

本調査の対象が、工業化の進んだ地域の中小企業である点は、考慮しなければならないが、回答事業所（回収率75%）のうち約半数の事業所で、NC・MC、産業用ロボット、トランスファーマシン、CAD・CAMなどのなんらかの自動化機械設備を導入している。

このように中小企業においてME化が進んでいる背景としては、①マイクロエレクトロニクス技術の進歩により自動化機械設備の性能が高度化し、かつ価格が低下したこと、②低経済成長下において、中小企業が存立していくためには、多様化する市場のニーズや親企業からの要請に応えるため、新製品の開発、高品質の製品の生産等を必要としており、技術水準の向上にせまられていたこと、③中小企業における技能者不足が省力化機械設備の導入を促進していることなどがあげられよう。

自動化機械設備の導入成果をみると、導入企業の約8割の事業所で導入成果をあげていると回答している。また、自動化機械設備導入事業所の方が、出荷額が増加している事業所が多いと回答している。これらの結果にみられるよう

に、ME化の進展は、中小企業にメリットをもたらしており、今後とも中小企業のME化は、進むものと予想される。

以上のような結果から、我々は、中小企業がME関連機器を積極的に導入し、その成果をあげていることを、ひとまず積極的に評価しておくべきであろう。しかし、そこに問題がないわけではない。

第1に、ME化は、半熟練、未熟練労働者でも操作可能な生産システムを可能にする面があり、その気になれば熟練労働者を未熟練のパートタイム労働者に置き換えることも不可能ではない。しかし、熟練労働者の使い捨ては、生産現場の技術革新への適応力を低下させる結果をまねきかねない。中小企業事業主がこの点を十分認識しているかどうかは問題である。

第2は、必要労働力を自ら養成することなく、他企業で経験を積んだ者に依存せざるを得ない中小企業の体質である。

監督者については、内部育成を図るところが少なくないが、一般技能者については、外部市場への依存度が強い。このことは中小企業における技能の累積的發展を阻害し、また、それは、従業員の定着意識に水をさすことにもなる。

第3は、ME化に関連して、中小企業の技術力の向上を担う技術者の採用が困難視されていることである。

第4は、中小企業事業主の主たる関心は、自動化機械設備の導入に対して需要を確保することであり、技術革新の担い手としての中堅技能者や監督者に対してME化に適応していくために能力向上を図りたいという認識は強いが、実際に対策として講じているところが少ないことである。

以上のようなことからみて、ME化が進展している中小企業において、人材育成面で問題点は少なくない。

また長期的な視点でも中小企業が人材育成面でかかえている問題は少なくない。公共訓練施設が、これに対してどう関与しうるかについては、その前提として、中小企業における技術移転のメカニズム、例えば、自動化機械設備のメーカーによる導入時の教育訓練などの波及過程や、中小企業における人材育成シ

システムなどを明らかにする必要があり、我々としては、これらを今後の研究課題として取り組んでいくことにしたい。